

グリリシディア（マメ科）

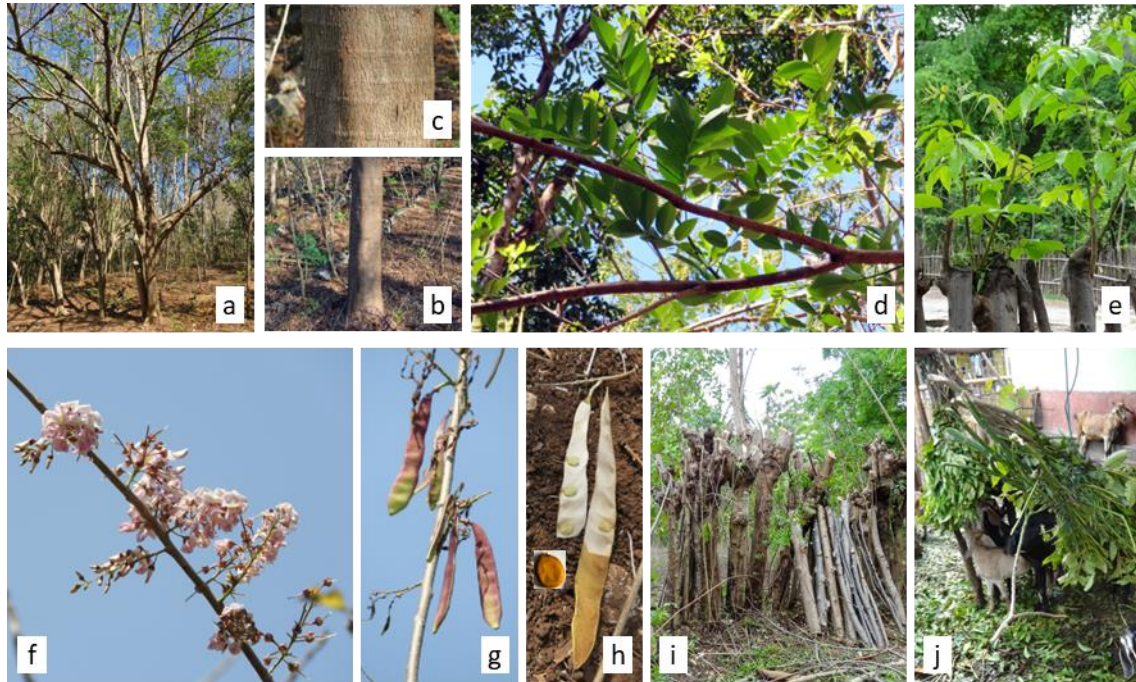
Gliricidia sepium

英語 Quickstick, grilicidia, Mexican lilac;

スペイン語 madre de cacao;

インドネシア gamal;

フィリピン kakwate



【概要】中南米原産の半落葉樹であるが、古くから各地に移入され、アジアには 1600 年代にもたらされたという。太枝でも容易に挿し木でき、且つ萌芽力が旺盛なため、薪や飼料を採る生垣や農園の被陰樹等、世界の熱帯・亜熱帯地域に導入されている。本属は中南米に 5 種を有す。

【形態】高さ 15m に達する中高木で樹幹はときに捻れる（写真 a）。樹皮は灰褐色、成長ともにヒビ割れする（写真 b, c）。葉（写真 d, e）は一回奇数羽状複葉（長さ 15~40cm）で互生、葉軸・葉柄は細毛で覆われる。小葉（長さ 3~6cm）は 3~8 対で鋭先端、上面は薄緑色で無毛、下面は灰緑色で有毛。乾期に開花し、花はピンク色（白色品種もある）の蝶形花、小枝から直角に伸びた多数の総状花序（長さ 5~12cm）をなす(f)。果実（鞘）は長さ 10~15 cm、種子は 3~8 個(h)、暗褐色へと成熟し（写真 g）、成熟後裂開して褐色の種子を弾く。鞘は 1~2 ヶ月で成熟するので、花と鞘が同時にみられる（写真 f, g）。

【生態】原産地の年平均降水量は 900~1900mm で明瞭な乾期がある。沿岸砂丘、川岸、洪積地、休閑地などの攪乱地や急傾斜地に先駆的に成立する。植栽地はより広い範囲（年降水量 600~3500mm）に見られるが、霜には耐えられないとされる。比較的耐乾性があり、様々な土壌で育つが、過湿や強い塩基性の土壌には耐性がない。

【繁殖・管理】種子は 4℃の低温乾燥処理で 10 年間は保存可能で、気乾状態でも 1 年は発芽力を保つという。発芽処理は必要なく、発芽率も一般に高い。挿し木には通直で側枝が

森林再生テクニカルノート：荒廃地修復のための主な植栽樹種

少ない枝が良く（写真 i）、直径 10cm 程度であれば直挿しできるが、その成木は根系が浅く強風に耐性が低い。生垣の枝葉の採取は、最初の 2 年は年に 1～2 回、その後は 3 ヶ月置きに採取する（写真 e）。薪炭用の萌芽更新は 6～8 年のローテーションで行われている。

【利用】葉の蛋白質含有量が高く、乾期の重要な飼料（写真 j）となるが、嗜好性や毒性も報告されている。薪の供給源であり、気乾比重 0.47～0.75。

【主な参考文献】(1) Elevitch, C.R. and Francis J.K. (2006) *Gliricidia sepium* (gliricidia) Fabaceae (legume family) Species Profiles for Pacific Island Agroforestry (April 2006 ver. 2.1), pp. 18 <https://raskisimani.files.wordpress.com/2013/01/gliricidia-gliricidia.pdf>

(2) Jøker, D. (2002) *Gliricidia sepium* (Jacq.) Steud.

SEED LEAFLET No. 51 January 2002 (revised 2005), 2pp, Forest & Landscape Denmark <https://sl.ku.dk/rapporter/seed-leaflets/filer/gliricidia-sepium-51.pdf>

(3) Orwa et al. (2014) *Gliricidia sepium* Agroforestry Database 4.0

https://apps.worldagroforestry.org/treedb/AFTPDFS/Gliricidia_sepium.PDF

(4) 浅川澄彦 (1995) 熱帯樹種の造林特性 (4) グリリシディア (*Gliricidia*) 学名 : *Gliricidia sepium* 熱帯林業 No.33, 67-71

<https://www.jifpro.or.jp/cgi-bin/ntr/documents/NET3367.pdf>

写真 a-d, f-h ジャワ島 14 年生

写真 e,i,j 撮影地：ロンボク島 撮影者：石塚森吉